

あらかわ 青少年委員だより

第125号

平成27年7月9日

荒川区青少年委員連絡会
荒川区地域文化スポーツ部
生涯学習課
登録(27)0025号

青少年委員だからできること
青少年委員にしかできないこと

荒川区青少年委員連絡会ホームページ
<http://www.arakawa-seishonen.jp/>



荒川区青少年委員連絡会

会長 中條 勉

任期二年のうち半分の一年が過ぎ、1期目の委員も例年の事業をひととおり経験いたしました。そんな中、4月29日(祝)に南千住野球場で開催された「川の手荒川まつり」では、「飛び出せ紙コップ!!」と銘打ち、1期の委員が中心となり紙コップのロケットを子どもたちと一緒に作りました。身近な材料で作って遊ぶ体験は、子どもたちの創造力を育み、成長には欠かせないものです。それと同時に1期の委員のあふれるような笑顔とアイデア、去年とはまるで違い頼もしく見えました。きつと皆様のお役に立てることでしょう。

10月には「城北ブロック研修会」(文京、台東、北、荒川区の青少年委員が一堂に会し行う研修会)を荒川区で開催し、ホスト区として企画運営を務めることになっていきます。今年度のスローガンである「青少年委員だからできること、青少年委員にしかできないこと」を踏まえ、各区の皆さんが持ち帰り、そして活かせる研修会を目指しています。私たち青少年委員は日々研修を重ね、自己研鑽に励み、これからも積極的な活動を展開してまいります。そして、行政、地域の皆さんと三位一体になることで、本来の意味での意義ある青少年健全育成の活動が創り出せると思っています。

どうぞ、今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

課長あいさつ



地域文化スポーツ部生涯学習課長

北村 美紀子

青少年委員の皆様には、中條会長をはじめ、各ブロック・各部長が中心となり、子どもたちの健やかな成長と体験活動並びに青少年団体への指導、さらには地域の交流促進など、パワフルでエネルギー溢る活動に感服しております。

平成27年度がスタートし、4月には「川の手荒川まつり」、「さくら教室開講式」、5月には「チャレンジ共和国」、「さくら教室校外学習」など、大きな行事が続き、青少年委員の皆様のご協力により、事故もなく滞りなく終えることができました。

こうした青少年事業に子どもたちが参加することにより、異年齢での集団行動を通して、競い合い、助け合いながら、自主性や協調性を育み、地域の温かい見守りの中で、時には叱られ、社会性や道徳心を身に付けることができるものと考えます。日頃から青少年委員の活動は、レクリエーションや自然体験などを取り入れ、体験を通して子どもたちの創造力を伸ばし、主体性を育むといった荒川区の目指す取り組みを進めておられます。

これからも、「青少年委員だからできること、青少年委員にしかできないこと」をスローガンに、次世代を担う子どもたちが心豊かに、たくましく育ちますよう、地域の青少年活動の相談者として、また、地域と行政を結ぶ連絡調整者として、青少年の健全育成にご協力をお願いいたします。



川の手荒川まつり

調査研修部会 川野 勝弘

こんにちは!!

私たち青少年委員は4月29日(祝)の『川の手荒川まつり』に参加しました。

今回の「作って遊ぼうコーナー」は調査研

修部会が企画した『飛び出せ紙コップ!!』。輪ゴムを組み合わせて紙コップを飛ばすおもちゃです。今年は時間をたっぷり取り、子どもたちと一緒に遊ぶことを目指しました。誰でも手軽に作れることもあって、チビっ子から比較的大きな子どもたちまで大勢集まりました。

午前の部はいたって順調! ところが午後の部になると、スペースが半分になるといふちょっとしたアクシデントが…。しかし狭い場所を上手に使い、子どもたちを退屈させないように声を掛け、時には一緒に飛ばしたりもしました。

おかげさまで予想以上に盛り上がり、ハマる子が続出! やり甲斐がありました。今後も新しいゲームや遊びを考え、子どもたちと一緒に盛り上がりたと思っています。



チャレンジ共和国

少年団体育成部会 光山 隆久

少年団体育成部会の今年度の最初の活動は、毎年恒例の「チャレンジ共和国」でした。年々子どもたちの応募が増え、今年は200名近い参加がありました。

参加者を十数名ずつの15班編成にし、それぞれ2名の育成者が必要となるため、他部会の委員にもお手伝いいただきました。

内容を変えて4回行うチャレンジ共和国では、地域や学校の違う子どもたちが互いに協力し、助けあいながら絆を深め、回を追う毎に、ひとまわりもふたまわりも逞しくなっていく姿を目の当たりにしました。子どもたちの真剣に取り組む姿に心組み、意義ある活動だと思いました。

今後はチャレンジキャンプ、子ども会大会などの予定もあり、我々もさらなるスキルアップを図ってまいります。

引き続き皆様のご協力をお願いいたします。



校庭利用実施委員会連絡会

校庭及び施設利用部会 神山 早苗

5月28日(木)、学校関係者・行政・青少年委員による校庭利用実施委員会連絡会が行われました。

南千住、荒川町屋、尾久、日暮里の4地区に分かれ、校庭利用を行う上で「困ったこと」「工夫していること」など意見交換をしました。

例えば、にこにこスクールのある学校では、時間・遊具などを共有したり分けたりと、各工夫して利用しているとのことでした。

その他にも、災害時の対応、不審者への対応、中学生の利用、感染症流行時の実施の判断などについて、様々な問題が提起されました。

校庭利用は小学生が安心して遊べる場所を提供する事業です。各校で改めて話し合っていたいただきましたと思います。



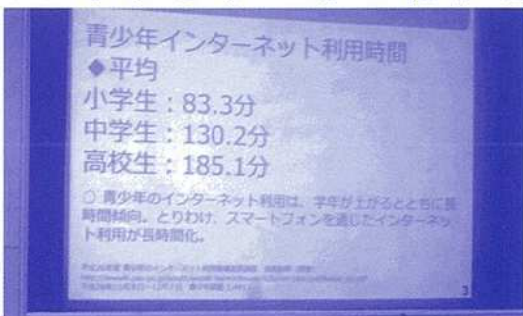
東京都青少年委員会連合会定期総会

副会長 今井 文江

5月30日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、平成27年度東京都青少年委員会連合会定期総会が行われました。全都の青少年委員が一堂に会し、今年度の予算案及び活動計画等について確認しました。

「スマホ時代の子どもたち」その実態と大人の役割」という非常にタイムリーなテーマについて、インターネット利用アドバイザーである中島尚樹氏の講演がありました。今、子どもたちがさらされているネット社会の現状は、「おじさん、おばさんにはよく分からないから」では済まされないものがあります。そうした現状に対し、大人が果たすべき責任と役割について、詳しく、わかりやすいお話をいただきました。

子どもたちを取り巻く大人のひとりとしてしっかりと受けとめ、今後活かしていきたいと思えます。



さくら教室校外学習

青年団体育成部長 小熊 賢一

5月31日(日)、荒川区心身障がい者青年教室「さくら教室」の校外学習で、新江ノ島水族館へ行きました。充実した設備と内容で、大人にも子どもにもとても人気が高く、大勢の来場者で賑わう施設です。

参加した73名の受講生は、12の班に分かれてそれぞれ班行動で見学をしました。各班3名ずつのスタッフは、事故などが起きないように一緒に行動しました。見守るスタッフの私たちもとても緊張し、興味があると離れない、暗い場所が苦手、迷子やトイレの心配、暑い日だったので体調の管理など、大変気を遣いました。

受講生は水槽の魚たちやきれいなクラゲ、ペンギンを見て喜び、私たち青少年委員は、楽しむ受講生を見て嬉しい気持ちになりました。

受講生の喜びや真剣な眼差しを大切にしたいと願う、なんだか親子のよくな関係が私たちの活動の支えになっています。

ケガもなく無事に終えることができ、疲れと同じくらい充実感を得ることができた校外学習でした。



あらかわ遊園見守り隊

校庭及び施設利用部長 鹿熊 正剛

校庭及び施設利用部員8名は、5月31日(日)、あらかわ遊園見守り隊として園内を視察しました。私たちが昨年お願いした内容(トイレ内の子ども用便座の増設等)は、ほぼ改善されていました。

今回はあまり気になる箇所はありませんでしたが、動物たちが飼育されているオリが狭く、少しかわいそうでした。

孔雀は、他の動物とのシェアハウスのため、たぶん羽を広げることができない? 敷地がもう少し広ければいいのに…。

当日はイベントがあり混んでいましたが、遊具にも乗せてもらい、部員一同、童心にかえることができました。

荒川遊園に行くたびに思うのは、ポスターや案内のチラシが手作り感があり、雰囲気も昭和をほうふつとさせるすばらしい区立の遊園地だということ。これからも区民の一人として、温かく見守っていききたいと思えます。



編集後記

夜9時の区役所3階。前回校正した文章はほぼOK。最後の原稿も到着。消灯した会議室で、ノートPCからスクリーンに次々映し出される写真を全員が注視します。本当は子どもたちの笑顔を載せたいけど、プライバシーに対する配慮も必要など、色々大人の事情が。時間はかかるけど、苦労する分だけ良い写真が見つかります。(び)

毎回の広報部会では、星野部長を中心に、楽しく・和気あいあいと部会を行っています。

編集作業に取り掛かると、時を忘れ長時間になることもあります。完成した広報誌やホームページを見ると、編集の苦労も達成感に変わります。

今後も広報活動に、頑張っていきたいと思えます。(たまちゃん)

